

第6学年図画工作科 学習指導案

日 時 令和6年7月16日(火)
第5校時 13:15～14:15
対 象 第6学年2組28名
授 業 者 高橋 類子
会 場 図工室

【研究主題】

主体的に学ぶ児童の育成

～学びのユニバーサルデザインの視点による授業改善～

1 題材名 「ココロのカタチ」「A表現」(1)イ, (2)イ, [共通事項](1)ア, イ

2 題材の目標

・材料・用具を適切に扱うとともに、既習事項を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すことができる。【知識及び技能】

・形や色の組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えることができる。【思考力、判断力、表現力】

・つくりだす喜びを味わい、進んで表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組む。

【学びに向かう力、人間性等】

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じが分かっている。 ② 材料・用具を適切に扱うとともに、既習事項を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	① 形や色の組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ② 形や色の組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	① つくりだす喜びを味わい、進んで表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

4 材料・用具

(絵に表す) 画用紙、黄ボール紙、色鉛筆、パステル、水彩絵の具、アクリル絵の具、粉絵の具、のり水、筆、刷毛、皿、ぞうきん

(立体に表す) 軽量紙粘土、へら、木材、万力、のこぎり、電動糸のこぎり、紙やすり、きり、電動ドリル、アルミ線、アルミホイル、ペンチ、ラジオペンチ、グルーガン、接着剤、U字くぎ、かなづち、くぎぬき、安全メガネ

5 指導観

(1) 題材観

本題材は、共通するテーマのもと、材料・用具、表現方法を児童が選び、表す題材である。通常、図画工作科の授業においては、「絵に表す」「立体に表す」「工作に表す」「造形遊び」等の領域に分かれているが、本題材はUDLをより意識し、既習事項を生かした選択肢をいつもより多く設定した。本題材の前には、教科書題材「木と金属でチャレンジ」の学習を行ったばかりで、材料から発想し、木材、アルミ線、(アルミホイル)を組合わせて「立体に表す」学習を行った。その際、のこぎりや万力、電動糸のこぎり、ペンチ、ラジオペンチ、U字くぎ、かなづち等の扱い方についても確認しているため、本題材においても既習事項を生かして表現することはスムーズに行えると考えられる。

「絵に表す」児童については、使い慣れた色鉛筆や水彩絵の具、アクリル絵の具等を使い分け、表現できると予想した。最近紹介した粉絵の具やしばらく使っていないパステルについては、扱い方の確認を行いたい。

(2) 教材観

「絵に表す」ことと「立体に表す」ことは、全く別のことと捉えている児童が少なくない。絵に表すことは得意だが、立体に表すことは苦手、あるいはその逆など、題材を提示する際に児童はさまざまな反応をする。通常、図画工作科の授業においては、児童がその別を選択することはできない。しかし、表現することにおいて、「絵に表す」ことと「立体に表す」ことの違いとは何か改めて考えると、題材の手わたしから表現までのプロセスにそれぞれの材料・用具による思考や方法の違いはあれど、表現することの本質は変わらない。児童が形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら表したいことを見付け、決定し、試行錯誤しながら表現することに、「絵」「立体」の違いはないことを本教材を通して改めて見つけ直したい。

(「工作」に表すことはそこに用途が加わる)

(3) 児童観

本学級の児童は、表すことを好み、図工の授業を楽しみにしてくれている児童が多い。題材を手わたすと、自ら工夫し、表現を深めていける児童が多くいる。一方で、表したいことはあっても具体的にどう表したらよいかわからない児童や、表現過程でうまくいかないことがあると、どう乗り越えたらよいかわからずあきらめようとする児童もいる。日頃から教師の提示が全てではなく、自ら思い付いたことや試してみたいことに自主的に取り組んでほしいということを伝えている。そのため、自分なりのアイデアを表現に生かす提案ができる児童が増えてきた。本題材を通して、より自分のアイデアや表現に自信をもち、造形活動に取り組める力を身に付けてほしい。

6 研究主題に迫るためのオプション

(1) 提示に関するオプション

① 既習事項の提示 [ガイドライン(7.1)(7.3)(5.2)(6.1)]

最近扱ったもの、久しぶりに扱うものがあるため、それぞれ思い出せるように確認をする。実物を示しながら口頭で伝え、視覚的にも聴覚的にも理解できるようにする。

② 振り返りの共有 [ガイドライン(1.1)(1.2)]

2時間目(次時は2時間続きの2・3時間目)に前時の振り返りを共有する。個々の気付きや発見、工夫等を共有し、自分の表現に取り入れられるようにする。

(2) 行動と表出に関するオプション

① 作品イメージの共有 [ガイドライン(1.1)(1.2)]

どのようにイメージし、どのように表現したらよいかのモデルになるようなアイデアや作品イメージの共有をすることで、ヒントがないと発想・表現が難しい児童も取り組みやすいようにする。それでも難しい児童については、個別に支援する。[ガイドライン(4.1)]

② 使用材料・用具、表現方法の自由化 [ガイドライン(7.1)(7.3)(5.2)(6.1)]

自分の表したいイメージに合わせて、材料・用具、表現方法を選択できるようにする。

(3) 取り組みに関するオプション

① 個人のためへの設定 [ガイドライン(8.1)(8.2)]

自分が表したいものを表現することそのものが個人のためとなる。

② 交流の自由化 [ガイドライン(5.2)]

材料・用具を取りに行く際等に児童同士の交流が自然と生まれるような場の設定にし、安全に配慮した上での交流はしてもよいことを伝える。

7 題材の指導計画と評価計画(全3時間)

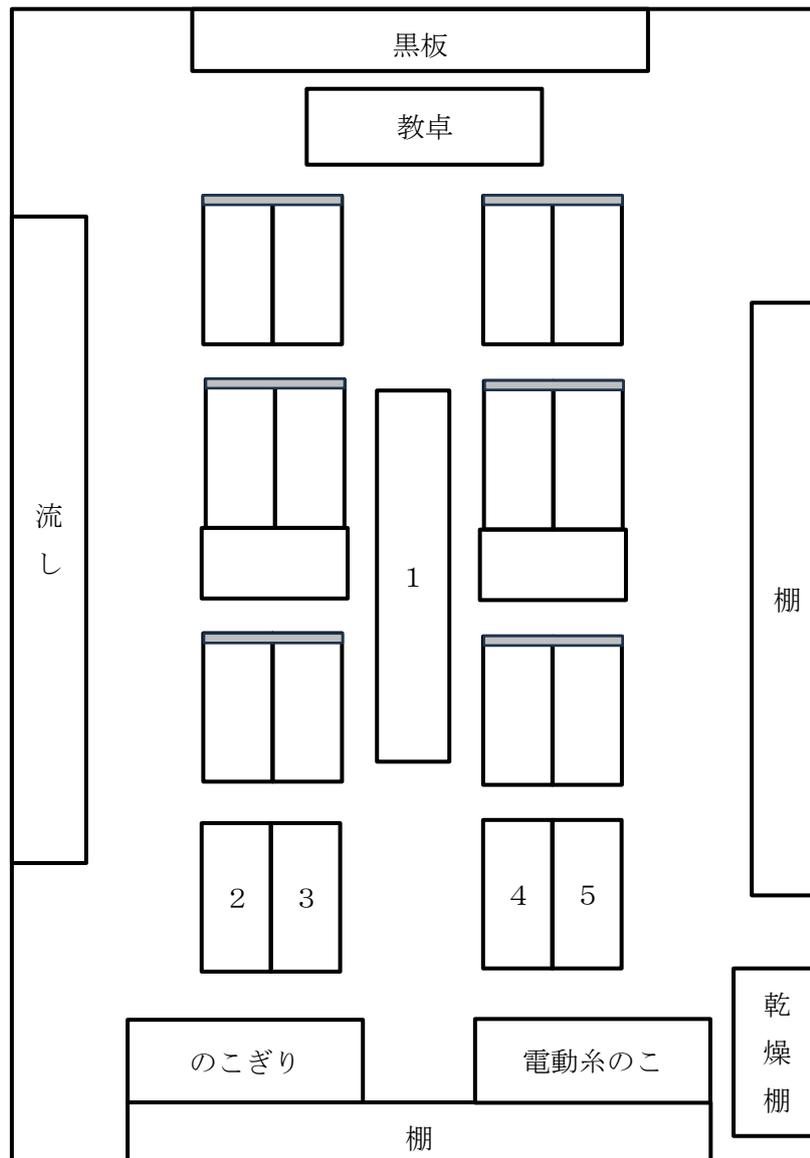
時	学習目標	○学習活動	オプション	評価
1 本 時 60 分	学習のゴールや学習計画を決めることができる。	○題材の目標を知る。 ○材料・用具、表現方法を知る。 ○作品イメージの共有をする。 ○安全確認をする。 ○めあての設定をする。 ○表現する。 ○振り返りをする。 ○片付けをする。	・既習事項の提示 ・作品イメージの例示 ・安全注意 ・個別支援 ・交流の自由化 ・振り返りの例示 ・正対させることを確認	態度、 発言等 活動の 様子 作品
2 ・ 3 90 分	学習計画に沿って、表現することができる。	○前時の振り返りの共有をする。 ○めあての設定をする。 ○表現する。 ○振り返りをする。 ○片付けをする。	・個別支援 ・交流の自由化 ・振り返りの例示 ・正対させることを確認	態度、 発言等 活動の 様子 作品

8 本時の学習（1／3時）

本時のめあて	材料・用具、表現方法を自分で選択・決定し、「ココロのカタチ」を表す。
UDL ガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った材料・用具、表現方法の選択(7.1)(7.3) ・自分の「ココロ」を表現する(7.2)
本時のゴール	既習事項を生かし、自分の表したいイメージに合った方法で表現できる。

分	○学習活動の流れ◇指導	予想される児童の多様性	オプション	評価
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の目標を知る。 ○材料・用具、表現方法を知る。 ◇安全確認をする。 ○作品イメージの共有をする。 ◇抽象的表現の作品を数点見せ、どんな「ココロのカタチ」に見えるか考えさせる。 ◇見せた作品の共通点から、抽象表現で表すことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の目標を把握できない。 ・作品のイメージがもてない。 完成のイメージ 材料のイメージ 表現方法のイメージ 表現過程のイメージ 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の提示 ・作品イメージの例示 	態度、 発言等
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ○めあての設定をする。 ○表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でめあてを設定することが難しい。 ・アイデアが浮かばない。 ・材料・用具、表現方法を決められない。 ・イメージに合った表現ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援 ・交流の自由化 ・つくり変えてもよい設定 	活動の 様子 作品
まとめ 15分	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りをする。 ◇正対させることを確認 ○片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことに苦手意識がある。 ・めあてに正対していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの例示 	題材 シート (図工 ブック)

9 場の設定



【安全配慮】

—— のこぎり（手、万力固定）使用可ゾーン

のこぎり（足固定）、電動糸のこぎり使用箇所を限定する。

1…（絵に表す材料・用具）

画用紙、黄ボール紙、水彩絵の具、アクリル絵の具、粉絵の具、のり水、筆、刷毛、皿、ぞうきん

2・3…（立体に表す材料）

軽量紙粘土、木材、アルミ線、アルミホイル

4・5…（立体に表す用具）

へら、万力、のこぎり、紙やすり、きり、ペンチ、ラジオペンチ、グルーガン、接着剤、U字くぎ、かなづち、くぎぬき、安全メガネ

（電動ドリルは教卓に置き、使いたい児童がいたら貸し出す）

	取り組みのための 多様な方法 感情のネットワーク 「なぜ」学ぶのか	提示（理解）のための 多様な方法 認知のネットワーク 「何を」学ぶのか	行動と表出のための 多様な方法 方略のネットワーク 「どのように」学ぶのか
アクセスする	興味を持つ ためのオプションを提供する(7) ★自分に合った材料・用具、表現方法の選択(7.1)(7.3) ★自分の「ココロ」を表現する(7.2)	知覚する ためのオプションを提供する(1) ・黒板、モニター、タブレットで提供(1.1) ・視覚的に提供する(1.2) ・聴覚的に提供する(1.3)	身体動作 ためのオプションを提供する(4) ・個別対応、個別支援する(4.1) ・タブレット利用できるようにする(4.2)
積み上げる	努力やがんばりを続ける ためのオプションを提供する(8) ・個別に目標を設定する(8.1) ・個別に課題を設定する(8.2) ・鑑賞する(8.4)	言語、数式、記号 ためのオプションを提供する(2) —	表出やコミュニケーション ためのオプションを提供する(5) ・自分に合った材料・用具、表現方法の選択(5.2) ・交流の自由化(5.2)
自分のものに にする	自己調整 ためのオプションを提供する(9) ・肯定的な声かけをする(9.1) ・個別に支援する(9.2) ・振り返りをする(9.3)	理解 ためのオプションを提供する(3) ・作品イメージを共有する(3.1)(3.2)	実行機能 ためのオプションを提供する(6) ・自分に合った材料・用具、表現方法の選択(6.1)
ゴール	学びのエキスパートとは…		
	目的を持ち、やる気がある	いろいろな学習リソースや知識を活用できる	方略的で、目的に向けて学べる

11 各材料の特徴

(材料)

軽量紙粘土…ひび割れしにくく、成形しやすい。絵の具を使って色を混ぜ込むこともできる。

木材…元々の形を生かし、切る、貼る、削る、組み合わせる等により形を変えることができる。

アルミ線…柔らかく、曲げる、折る、切る等の加工がしやすい。紙粘土の芯材にもできる。

アルミホイル…丸める、ねじる、叩いて固める等の加工がしやすい。紙粘土の芯材にもできる。

(描画材料)

色鉛筆…筆圧により、色の濃淡を表現することができる。細かい表現に向いている。

パステル…淡い色合いの表現に向いている。指等でこすり、粉を紙に定着させる。

水彩絵の具…溶く水の量により、淡い色合いから濃い色合いまで表現することができる。

アクリル絵の具…乾燥したら水に溶けない。紙、木材、金属等さまざまな素材に塗ることができる。

粉絵の具…つなぎとなるのり水で溶くことにより、児童が自分で絵の具をつくることできる。